

赤旗読者ニュース
北上かわら版

『国葬』なんてとんでもない

憲法改悪阻止連絡会 旧統一協会との癒着問題も告発

憲法改悪阻止北上連絡会（八重樫一郎代表）は19日、街頭から「法的根拠がなく、国会にもはかることなく、政治も経済も民主主義も破壊してきた安倍元首相の国葬なんてとんでもない！やめさせましょう！」などと訴えました。

今回の行動は、2015年9月19日に安倍自公政権が強行・成立させた「戦争法」の廃止等を求めて、毎月の「19日行動」の一環で行ったものです。八重樫代表らは、安倍氏の「破壊」ぶりについて、戦争法のほかに「森、加計、桜」問題や、アベノミクスによる物価高騰、消費税増税、そして旧統一協会との癒着問題を告発しました。

旧統一協会との癒着問題については、「岸田改造内閣にも引き継がれており、自民党全体にもおよび、国会を早急に開会し、徹底した説明が求められます」と語りました。



「『国葬』をやめさせましょう」と訴える参加者（さくら野前）

コロナと物価高騰から くらしと営業を守れ！

北上民主商工会が緊急要望 日本共産党市議団が同行

先に提出（8月10日）していた高橋敏彦市長宛ての「新型コロナ危機と原材料価格・物価高騰から市民生活と中小業者の営業を守る緊急要望書」について19日、北上民主商工会（深澤卓也会長）は、関係部長（斎藤昌彦企画部長、高橋謙輔財務部長、高橋英樹商工部長、阿部英志都市整備部長、小笠原勝也商工部参与）らと懇談しました。民主商工会からは、建設業、塗装業、

入制度実施中止を国に要望すること

要望事項にたいして市側からは、「資材等の値上がりは承知している。毎月のように補正を組んで来た。9月、あるいは10月でも対応したい。地元業者の活用をさらにはかかっていきたい」などの答弁がありました。

要望事項

要望は、「私たちが行ったアンケートでは原材料仕入れ値の高騰が昨年比、事業者全体の85%、経営が苦しいと答えたのが53%におよんでいる」などと前置きしました。

【要望項目】

- 1、「原材料価格・物価高騰対策支援金」を創設すること
- 2、コロナ対策として「地域企業復活支援金」「家賃補助」等を創設すること
- 3、住宅・店舗リフォーム助成制度を創設すること
- 4、水道料金の免除を実施すること
- 5、「金利・保証料自己負担なしのあっせん融資」を創設すること
- 6、消費税5%減税の実現と来年10月からのインボイ

「これまでの支援で助かった面もあるが、いまは大変。（家賃が高く）店を移転した。キオクシアも来たが会社から（コロナで）『飲みに行くな』と言われていた。支援策をお願いしたい」（飲食店主）、「ごみ袋の手数料をせめて半額にしてほしい。食料品値上げが8月最大となっている。飲食業に影響が出て、8月いっぱい閉じる店が2軒出ている。水道料金などの

また、議員からは「電気が払えず、クーラーも点けられないという市民の声がある。物価高騰は一過性のものではない。住宅リフォーム補助など緊急経済対策をすぐやるべき。事業者は待てない。明日にでも支援が必要だ。市も努力しているが、国や県の（支援の）隙間を埋めるといっている感じが、今日切実な声にぜひ応えてほしい」などの発言がありました。



都鳥伸也民商副会長（左から2人目）と共産党市議団（右2人）ら

民商会員ら（左側）と市当局（右側）



ソバ(蕎麦)の花

和賀町でソバ畑を見かけました。
 ソバは、奈良時代以前に中国から朝鮮半島経由で渡来したといわれています。当時は「曾波牟岐」(そばむぎ)と表記されていたようです。
 曾波は古語で「稜」(そば)のことで、木材の角などをこう読んでいました。
 ソバの実にはこの稜があることから曾波と呼ばれ、牟岐は中国では蕎麦(きょうばく)から影響を受けて「麦」(ムギ)の一種とされていたそうです。
 書いているほうもわけがわからなくなりましたが、結局、最終的に蕎麦に落着き、ソバを蕎麦と書くようになったとか。
 どんと晴れ!! (S)



一面ソバの花が咲き乱れていました。



夏油の四季④

郡司 直衛
白っこ森という山

小さな山
 メクソハンカケの 小(べあつ)
 コな山
 牛形の長根と
 うさぎ森の大長根にはさまれた
 双晶の紫水晶
 小さな方が 白っこ森
 すこし大きい方が 鷲ヶ森
 いつも白いマフラーをかけ
 落日には黄金にかがやき
 まっ赤に燃える
 やがて紫にけむり紺に戻れば
 あとは闇に消えてしまう
 小(べあつ)コな山
 白っこ森



山積みのごみの前で伊藤環境政策課長(手前)から説明を受ける安徳(左)高橋(右)両議員

どうするごみの山と復旧

日本共産党市議団が視察

日本共産党市議団は23日、議会で取り上げられた市清掃事業所(上鬼柳)の不燃ごみの処理と施設復旧に関する視察を行いました。
 同事業所はこれまで、リサイクルセンターとして、不燃ごみの分別・資源化を行ってきましたが、5月2日の施設火災によりそれができなくなり、花巻市や民間処理業者に委託して破碎処理等を行っ



伊藤市環境課長(左)から説明を受ける安徳(中)高橋(右)両議員

てきました。しかし処理が追いつかず、現在、写真のように「野積み」状態になっており、雨水・排水等の汚染の危険と、施設・設備等の改修が課題となっています。
 視察した市議団代表の鈴木健二郎市議は、「何よりも早期に復旧して、スムーズな処理と、地域住民の不安除去や、事業所



火災に遭った3号棟施設



手作業で手数料袋からごみを取り出している職員

で働く職員の安全を望みますが、あらためてごみの分別の不徹底や危機管理の不十分さを感じました。4年後には新リサイクル施設の稼働が計画されていますが、何よりも市が力を入れるべきことは、住民との共同による徹底したごみ減量・資源化と、ごみ袋の大幅な負担軽減だと思えます。今回視察して、市民が安くない袋を購入し、ごみを持ち込み、袋はそのまま処分してしまうのはあまりにも不合理だと感じました」と語っています。